# チーム旭

印刷を支え加工を活かす

Interview 83

折り部門

## 福田（ふくだ） 侑介（ゆうすけ）さん

**紙を正確に折る。その単純な作業の裏には、機械の特性を読み、紙の状態を見極める繊細な「技」が必要。折り部門の福田侑介さんは、その技を駆使しながら、「まっすぐ」という基本を常に意識し、品質を守り続けています。今回はどのように技術を磨いてきたのか、品質への思いと合わせてじっくり伺いました。**

**――仕事において、最も「技」が試されると感じる部分を教えてください。**

多種多様な機械を使いこなす必要があるところです。仕上げる製品に応じて機械を使い分けるのですが、どの機械も扱えなければ仕事になりません。そして重要なのが、紙を機械に当てる際に「平行」を保つことです。紙が少しでも斜めになっているときれいに折れないため、常に「まっすぐ」を意識しています。また、紙が重なって機械に入らないよう、一枚一枚がばらけているかを確認しながら作業を進めることも欠かせません。

**――その技術を習得するために、どのような努力や工夫をされてきましたか？**

入社当初はゼロからのスタートで、とにかく先輩方に聞きながら仕事を覚える日々。その中で、失敗を経験して品質への意識が大きく変わりました。入社間もないころ、確認不足で違う店舗の製品を混入させてしまったのです。それ以来、確認作業はより一層気をつけるようになりました。人の目でチェックする以上、見逃しは起こり得ますが、二重チェックを行うなど、できる限りミスをしない努力を続けています。

**――製品の品質を支えるために一番大切にしていることは何ですか？**

社内で決められたルールをきちんと守ることです。チェックリストももちろんですが、「掃除をしなさい」といった上司からの口頭での指示も含め、決められたルールを守ればミスは起きません。チェックリストについては、必ず自分だけでなく上司にも確認してもらうダブルチェックを徹底しています。また、少しでも不安に感じたときは、必ず立ち返って自分の作業を見直すように心がけています。

**――「大変だったけれど、やり遂げた！」というエピソードがあれば教えてください。**

毎年9～11月にかけての繁忙期をチーム一丸となって乗り越えられたときには、大きな達成感があります。この時期はパンフレットやチラシの受注が集中し、多いものでは100万枚を超える製品を4、5日から1週間かけて加工することもあります。毎日同じ作業が続くと、どうしても気の緩みから不良を見逃しがちになります。そうならないよう、お互いに声がけをしながら、無事に繁忙期を乗り切れたときは、やりきったと感じます。

**――社員の皆さんへ伝えたいことはありますか？**

まずは自分たちの部門で不良ゼロを達成し、1年間を通して維持することが目標です。そのために、チームワークを大切にし、皆で声をかけ合っていきたいと思います。また、折り部門は、中綴じ部門をはじめとする他部門との連携が不可欠です。部門間でしっかりとコミュニケーションを取り、情報を共有することが、会社全体の品質向上につながると思います。皆で協力し、より良いものづくりを目指していきましょう。

一つひとつの作業で確認を徹底し、決められたルールを遵守する。その真摯な姿勢こそが、福田さんの技術の根幹であり、旭紙工の品質を支える力となっています。これからも職場のチームワークを高め、より確かなものづくりへと導いてくれることでしょう。

### 企業情報

◆創　立　年：1983年1月
　※創業：1963年
◆年　　商：17.6億円
◆従業員数：200人

※ 2023年12月実績

幹部たちの

# ビジョンとパッション

第20弾

会社の未来を切り開くキーパーソンに迫るシリーズ企画。今回登場するのは、管理本部の田淵幸一さんです。会社全体の未来を見据え、「次世代の教育こそが最大のミッション」と語る一方で、新たな事業の柱となる「特殊製本」の確立にも情熱を注ぐ田淵さん。その熱い思いに迫ります。

## 旭紙工のここがすごい！

### 旭紙工の強み

### 経験豊かな人材が実現する、期待を超える対応力

私たちの強みは、紙加工全般における「対応力」にあります。業界の中でも従業員数が多く、各部門に勤続20年以上の経験豊富なメンバーが揃っているのが特徴。メンバーの高い技術力とマンパワーがあるからこそ、お客様からの難しいご要望や厳しい納期にも、スピーディーに対応することが可能です。お客様の要望に全力で応える姿勢こそが、他社には負けない力だと自負しています。

2019年カレンダー現場にでていた頃の写真

### 今後長期的に成し遂げたいこと

### 次世代の育成が最大のミッション

私が定年までに成し遂げたい最大のミッションは、「次世代の人材育成」です。現在、50代の部長、40代の課長と経験豊富な人材は揃っていますが、その次の30代、20代が育っていないのが大きな課題。若手が部門長の右腕として活躍できるよう、スキルアップを後押ししなければなりません。まずは高校や合同説明会へ足を運び、採用活動に注力します。社内の育成計画書も、今の時代に合わせて見直していきます。また、約80名在籍している外国人従業員も大切な戦力。さらに日本語能力を高め、工場の中心メンバーとして成長できるよう、教育体制を強化していきたいと考えています。

## 田淵さんの考えとは？

管理本部 副本部長

田淵（たぶち） 幸一（こういち）さん

### 仕事をする上での信念

### すべての根幹にあるのは「安全」と「教育」

かつて現場にいた頃は「他社よりも良いものを作る」ことが信念でした。しかし管理本部に移った今、最も大切にしているのは工場で働く皆さんの「安全」です。特に労働時間の管理には気を配っています。繁忙期はどうしても長時間労働になりがちですが、少しでも改善できるよう工場長と連携しています。また、誰もが気兼ねなく休暇を取れる環境づくりも重要です。一部のスキルが高い人に仕事が集中すると、その人が休めなくなってしまいます。全員のスキルを底上げし、誰もが安心して働ける職場にすること。これもまた、私の信念である「教育」につながっています。

### 仕事をする上で大切にしている考え方

### 相手の話を聞き、新たな挑戦を続ける

仕事を進める上では、自分の考えを一方的に押し付けず、まずは相手の話をしっかりと聞くことを心がけています。一人ひとりが持つ多様な意見に耳を傾け、それぞれの思いを引き出すこと。これがより良い結果につながると信じています。

総務の仕事とは別に、今個人的に力を入れているのが「特殊製本」部門の立ち上げです。御朱印帳や豪華なアルバムなど、手作業でしか作れない本の製作は、会社の新たな強みになるはず。まだ社内に経験者はいませんが、この事業を軌道に乗せることが、もう一つの私の大切なミッションです。